

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 22 日現在

機関番号：33502

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370057

研究課題名(和文)チベット仏教における大中観他空説の思想基盤に関する研究

研究課題名(英文)A Research for a foundation of the Great Madhyamaka of other-emptiness in Tibetan Buddhism: What founded it

研究代表者

榎殿 伴子(MAKIDONO, TOMOKO)

身延山大学・その他部局等・研究員

研究者番号：40720751

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究者は研究課題「チベット仏教における大中観他空説の思想基盤に関する研究」に3年間取り組んだ。この間、2度に渡ってネパールにおいて現地調査を実施し、文献資料の収集に努めた。その成果を国内の学会3回(日本印度学仏教学会第65・66・67回大会)、和文論文4本(うち査読有3本)、『コントゥルの『大中観他空説手引』について』印度学仏教学研究』第63巻2号、「ゲツェ・マハーパンディタによる「サムイェの衆論」論考」同第64巻第1号、「カルマパ13世の大中観他空説」同第65巻第1号)、英文論文2本、単行本1冊として発表した。

研究成果の概要(英文)：I worked on my three-year research project, "A research for a foundation of the Great Madhyamaka of other-emptiness in Tibetan Buddhism." During this period, I conducted fieldwork twice in Nepal where I collected documents and interviewed monks on the topic. The result of the project has been made as 3 papers presented at (the 65th, 66th and 67th conferences of the Japanese Association of Indian and Buddhist Studies, 5 articles published in academic journals such as the Journal of Indian and Buddhist Studies, vols. 63.2, 64.1, and 65.1, International Journal of Indian and Buddhist Studies vols 16, 17, and Acta Tibetica et Buddhica 8, and a publication of a book entitled dGe-rtse Mahapandita's Great Middle Way of Other-Emptiness, published by the Department of Buddhist Studies, Minobudan University and distributed by Sankibo Busshorin.

研究分野：チベット仏教

キーワード：チベット 仏教 大中観 中観 他空説 自空説 如来蔵思想 瑜伽行唯識

1. 研究開始当初の背景

研究の学術的背景他空説は、チベット仏教における中観派の教義であるが、その教義の特異性のためにチベット仏教内で異端視され、異教徒のアートマン説とも混同された。他空説についての学術的研究書も若干である。本件の申請者は、自身の博士論文で他空説についての研究に取り組んだ。本件は、その研究をさらに進め、チベット仏教における大中観他空説の教義を解明し、他空説の研究史に新たな学術的資料を提供し、教義についての理解を深める。

2. 研究の目的

本研究は、チベット仏教における大中観他空説の思想基盤を解明することである。その具体的調査対象として、ジョナン派のドルポパシェーラプギェルツェン(1292-1361)とターラナータ(1575-1634)及びニンマ派のゲツェ・マハーパンディタ(1761-1829)の著作を取り上げ、大中観他空説の特徴的思想を明らかにする。具体的には、以下の三点を考察する。(1) 彼らの著作に用いられる大中観他空説の特徴的思想と語彙を明らかにし、彼らの著作に引用される経典の他空的解釈を、規範的中観派の解釈と比較検討する。(2) 瑜伽行唯識思想と混同され、糾弾される彼らの思想を、彼ら自体がどのように差別化し、違いを証明しようとしているのかを検討する。(3) 「大中観」の持つ意味を明らかにし、チベット仏教における中観派の多様性について考察する。

3. 研究の方法

本研究は、文献学的考証と現地調査の二つの方法論を同時に組み合わせる。すなわち、(1) 厳密な文献学的考証に基づき、翻訳作業に当たっては、ドルポパ、ターラナータ、ゲツェ・マハーパンディタの著作の批判的校訂テキストの作成を行い、引用文献の識別を行う。(2) 本件の申請者は、自身の博士論文執筆の際、チベットの仏教寺院の大学で教鞭を取っている僧侶に教えを受け、質問し、その教義に対する理解を深めた。本研究においても、現地調査を随時続行する。(3) 資料収集については、博士論文の際に蓄積したデータベースを活用し、さらに、引用文献に関連する一次資料(サンスクリット語文献、漢訳文献、チベット語文献)、二次資料を収集する。一次資料については、現地調査を通してのみ得られる資料もある。

4. 研究成果

(1) 本研究者の研究課題である「チベット仏教における大中観他空説の思想基盤に関する研究」における平成26年度の研究成果として、学会発表と論文刊行がある。学会発表については、8月30日と31日に武蔵野大学有明キャンパスで開催された日本印度学仏教学会において研究成果の発表を行った。31

日に行った「コントロールの大中観他空説手引き」と題する発表では、チベット仏教カギユ派のコント

ウル・ロジユ・タイエの著作を取り上げ、彼の大中観他空説の理論と実践について紹介した。彼は19世紀に生存し、彼の学説は今日においてもカギユ派を代表するものとして認識されており、さらに、この著書の中で、彼は大中観他空を自ら表明し、著作の中でターラナータとドルポパの言説を論証として用いていることから、大中観他空の明瞭な典籍であり、とくに、大中観他空の中核を為す如

来蔵思想を顕教と密教の両者によって説き明かしているため、研究書として有意義である。同発表は『印度学仏教学研究』第63巻第2号において刊行された。31日には『法華経』に関するパネルにおいて「チベット仏教における『法華経』の用法:観音信仰と一乗思想」と題する発表を行った。この発表では、『摩尼十万語』というチベットの埋蔵経典とゲツェ・マハーパンディタの著作を取りあげ、前者においては『法華経』が観音信仰のために、後者では一乗思想のために用いられているということ指摘した。特に、研究者は自身の博士論文においてゲツェ・マハーパンディタの大中観他空説について研究しており、彼の一乗思想は、究極的には彼の大中観他空説と一致するため、彼の著作と彼の思想をさらに追求することには意義があるものである。同発表は、2015年に『身延山大学所報』に収録された。

(2) 平成27年度の研究実績は、(1)ネパールにおける現地調査と(2)学会における発表、並びに(3)論文刊行の三点から成る。まず、平成27年4月に行ったネパールにおける現地調査において、カギユ派のチベット仏教寺院で行われたセミナーに参加し、大中観他空派の故ケンポー・カンシャルの著作についての解説を聴講した。さらに、チャング寺院のケンポー・カルマ・ゲンドウンに大中観他空説に関するテキスト講読の個人授業を依頼し、ターラナータとコンチュルの著作を講読し、解説を受けた。学会発表については、高野山大学で行われた第66回印度学佛教学会で「ゲツェ・マハーパンディタによる「サムイエの宗論」論考」と題する論考を発表した。この中で、本研究者はニンマ派ゲツェ・マハーパンディタの著作である『三戒区分註』を取り上げた。彼の特徴的思想は大中観他空説であり、彼は、『三戒区分註』においても、大中観他空説を展開する。同発表では彼が他空説を基盤に据えて、「宗論」をめぐる中国禅とニンマ派批判に対する彼の反論を明らかにした。この研究発表は、『印度学佛教学研究』第64巻にて刊行された。さらに、身延山大学東洋文化研究所『所報』から「チベットにおける『法華経』の用法:観音信仰と一乗思想」と題する論文を刊行した。この論文は、平成26年度の研

究業績の一部である、武蔵野大学有明キャンパスで行われた第65回印度學佛教学会におけるパネル発表を論文として出版したものである。さらに、Indian International Journal of Buddhist Studies vol. 16 から “Kong sprul on the Great Madhyamaka of Other-Emptiness: Theory and Practice” を出版した。これは第65回印度學佛教学会の個人発表で行った研究成果の英文論文である。

(3) 最終年度の成果は二点ある。一つは日本印度學佛教学会(第67回学術大会 平成28年9月4日 東京大学武蔵野キャンパス)にて、「カルマパ13世の大中観他空説」という題目で口頭発表した後、『印度學佛教学研究』第65巻1号に論文として掲載された研究である。この発表は、カルマパ13世グ・グル・ドルジェが著した「理解と経験についての見解歌」に基づき、大中観他空説について彼がどのように理解し、提示しようとしているかを読み解くことを目的としている。これは、本科学研究費助成事業を通じて実施してきたネパールでのフィールドワークから来る成果である。まず、本研究者は平成26年に発表した科学研究費に基づく成果である「コントゥルの『大中観他空説手引き』について」(『印度學佛教学研究』第63巻2号)の中で、コントゥルが、他空説の系譜の中にカルマパ13世を位置づけていることを指摘した。その後、さらに、カルマパ13世のテキストについてネパールでの調査を実施し、テキストを得て、発表に至った。平成27年には、本研究者が博士論文で取り組んだゲツェ・マハーパンディタの著作から特に「サムイエの宗論」についての論考を取り上げ、彼の大中観他空説と中国禅との関係についての彼の考察を読み解くことを目的とした。コントゥルとゲツェ・マハーパンディタの両者いずれも、密教と大中観他空説を近似させていることに特徴があり、カルマパ13世では、大中観他空説と瑜伽行唯識派を近似させていることに特徴がある。成果の二つ目は、博士論文の英文での刊行である。ゲツェ・マハーパンディタの大中観他空説については本研究者が博士論文にて取り組んできたものであり、図書として出版した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 8件)

Makidono, Tomoko. Dge rtse Mahāpaṇḍita's Interpretation of the Bsam yas Debate, *Indian International Journal of Buddhist Studies*, 査読有、Vol. 17, 2016, pp.271-305.

檀殿 伴子、カルマパ13世の大中観他空説、印度學佛教学研究、査読有、第65巻第1号、2016, pp. 96-101.

Makidono, Tomoko, Kong sprul on the Great Madhyamaka of Other-Emptiness: Theory and Practice, *Indian International Journal of Buddhist Studies*, 査読有、Vol. 16, 2015, pp. 151-191.

檀殿 伴子、ゲツェ・マハーパンディタによる「サムイエの衆論」論考、印度學佛教学研究、査読有、第64巻第1号、2015、pp.388-382

檀殿 伴子、チベットにおける『法華経』の用法:観音信仰と一乗思想、身延山大学東洋文化研究所所報、査読無、第19号, pp.19-59, 2015.

檀殿 伴子、ゲツェ・マハーパンディタの大中観他空説について、*Acta Tibetica et Buddhica*, 査読無、Vol. 8, 2015, pp. 169-198.

檀殿 伴子、コントゥルの『大中観他空説手引』について、印度學佛教学研究、査読有、第63巻第2号、2014、pp.70-75.

片山 由美, 辛嶋 静志, 檀殿 伴子, 金炳坤, 望月 海慧(共著)「内陸アジアにおける法華経の展開、印度學佛教学研究、査読有、第63第2号、2014、pp. 260-261,

〔学会発表〕(計 4件)

檀殿 伴子、カルマパ13世 大中観他空説、日本印度學佛教学会第67回学術大会、査読有、東京大学本郷キャンパス、2016年9月3-4日

檀殿 伴子、ゲツェ・マハーパンディタによる「サムイエの宗論」論考:中国仏教とゾクチェン批判への反証、日本印度學佛教学会第66回学術大会、査読有、高野山大学、2015年9月20-21日

檀殿 伴子、チベットにおける『法華経』の用法:観音信仰と一乗思想、日本印度學佛教学会 第65回学術大会(パネル発表 片山由美、辛嶋 静志、檀殿 伴子、金炳坤, 望月 海慧 望月海慧企画「内陸アジアにおける法華経の展開」)、査読有、武蔵野大学有明キャンパス、2014年8月30-31日.

□ 檀殿 伴子、コントゥルの『大中観他空説手引き』について、日本印度學佛教学会第65回学術大会、査読有、武蔵野大学有明キャンパス、2014年8月30-31日.

〔図書〕(計 1件)

Tomoko Makidono. *dGe-rtse Mahāpaṇḍita's Great Middle Way of Other-Emptiness: A Study of the Kaḥ-thog dGe-rtse Mahāpaṇḍita 'Gyur-med-tshe-dbang-mchog-grub's (1761-1829) Madhyamaka of*

Other-Emptiness(*gzhan stong dbu ma chen po*).
Bibliotheca et Tibetica et Buddhica 2. Published
by the Faculty of Buddhism, the Department of
Tibetan Studies, Minobusan University. Sankibo
Busshorin: Tokyo. 2016.□

〔産業財産権〕

出願状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

榎殿伴子 (MAKIDONO, Tomoko)

身延山大学・国際日蓮学研究所・研究員

滋賀文教短期大学国文科・非常勤講師

研究者番号：4 0 7 2 0 7 5 1

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()